

アルフレッサグループ
CSR報告書 2015

Fresh life for all.

すべての人に、いきいきとした生活を。

alfresa group



アルフレッサグループの理念体系

私たちの
思い

すべての人に、いきいきとした
生活を創造しあげます

私たちの
めざす姿

健康に関するあらゆる分野の商品・サービスを
提供できるヘルスケアコンソーシアムをめざします

私たちの
約束

私たちは、常にお客様が満足を得られる
安心できる商品・サービスを安定的に提供します

私たちは、安全で働きやすい職場環境の確保・向上に努め、
一人ひとりの人格・個性を尊重し、健全な企業風土を創ります

私たちは、株主様の期待に応えるべく、
健康に携わる企業グループとしての企業価値を高めます

私たちは、公正かつ透明で自由な競争による適正な取引を行います

私たちは、お客様・お取引先様などからお預りした個人情報および自社の重要な情報を保護に
努めるとともに、広く社会との積極的なコミュニケーションを図り、適切な情報を適時に開示します

私たちは、事業活動を通じて社会に貢献するとともに、地域社会に対し
積極的な社会貢献活動を行い、地球環境問題にも自主的・積極的に取り組みます

CONTENTS

アルフレッサグループの
理念体系・目次・編集方針

P01

アルフレッサグループの
会社概要・事業概要

P03

トップメッセージ

P05

特集：人々の健康と生命を支える
医薬品流通

P07

アルフレッサグループのCSR

P15

私たちの約束 1

P17

私たちの約束 2

P21

私たちの約束 3

P25

私たちの約束 4

P27

私たちの約束 5

P29

私たちの約束 6

P31

第三者意見

P34

編集方針

アルフレッサグループは、CSRに対する考え方や取り組み内容をステークホルダーの皆様に紹介するため、2006年度よりCSR報告書を発行しています。

本報告書では、アルフレッサグループの企業理念体系に沿った構成とし、「私たちの思い」「私たちのめざす姿」「私たちの約束」に基づく考え方や取り組みをお伝えしています。あわせて、事業活動を支えると共に働く人々の声を通して取り組みを紹介することで、当社グループのCSRへの理解を深めていただくことを目指します。また、私たちの担う医薬品流通の社会的役割や私たちの思いをステークホルダーの皆様にご紹介する特集ページを設けています。

本報告書の発行を通じて、さまざまなステークホルダーの皆様とのコミュニケーションをより有効なものにしたいと考えています。

・報告対象範囲

アルフレッサ ホールディングス株式会社
アルフレッサ株式会社
四国アルフレッサ株式会社
ティーエスアルフレッサ株式会社*
明祥株式会社
株式会社小田島
シーエス薬品株式会社
株式会社琉葉
アルフレッサ日建産業株式会社
株式会社恒和薬品
アルフレッサ メディカルサービス株式会社
アルフレッサ ヘルスケア株式会社
アルフレッサ フーマ株式会社
(一部上記以外のグループ会社が含まれます)

*2015年4月、成和産業(株)と常盤薬品(株)の合併により発足
2014年4月1日から2015年3月31日まで
(一部2015年度の情報も含まれます)

・参考としたガイドライン

・GRI (Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・レポートイング・ガイドライン第3.1版」
・ISO26000(Guidance on social responsibility)
「社会的責任に関する手引」

・発行時期

2015年9月
(前回発行:2014年9月、次回発行予定:2016年9月)
*登場すると共に働く人々の所属および役職名は、原則として
2015年10月1日付のものです。

アルフレッサグループの会社概要・事業概要

会社概要(2015年3月31日現在)

会社名：アルフレッサ ホールディングス株式会社
(英訳名 Alfresa Holdings Corporation)

所在地：〒100-0004
東京都千代田区大手町一丁目1番3号

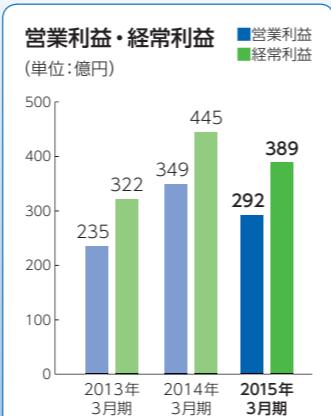
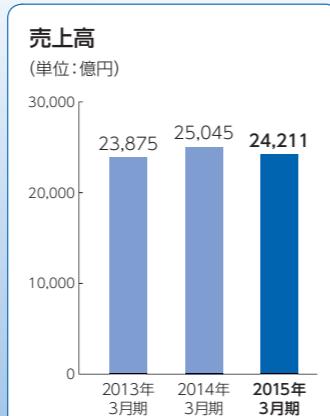
設立年月日：2003年9月29日

資本金：18,454百万円

代表者：代表取締役社長 石黒 傳六

事業内容：医薬品、医療用検査試薬、医療機器・用具等の卸販売および製造販売ならびに輸出入等を行う子会社の管理等

従業員数：14,020名(連結)



医療用医薬品等卸売事業

医療用医薬品を中心に、診断薬、医療機器・用具などのさまざまな商品を病院、診療所や調剤薬局などに提供しています。また、重要かつタイムリーな情報提供など、情報面からもお客様をバックアップしています。



セルフメディケーション卸売事業

一般用医薬品を中心に、健康食品、サプリメント、化粧品などをドラッグストア、薬局・薬店などに販売しています。多様化するお客様のニーズにお応えするため、付加価値の高いサービスをご提供しています。



医薬品等製造事業

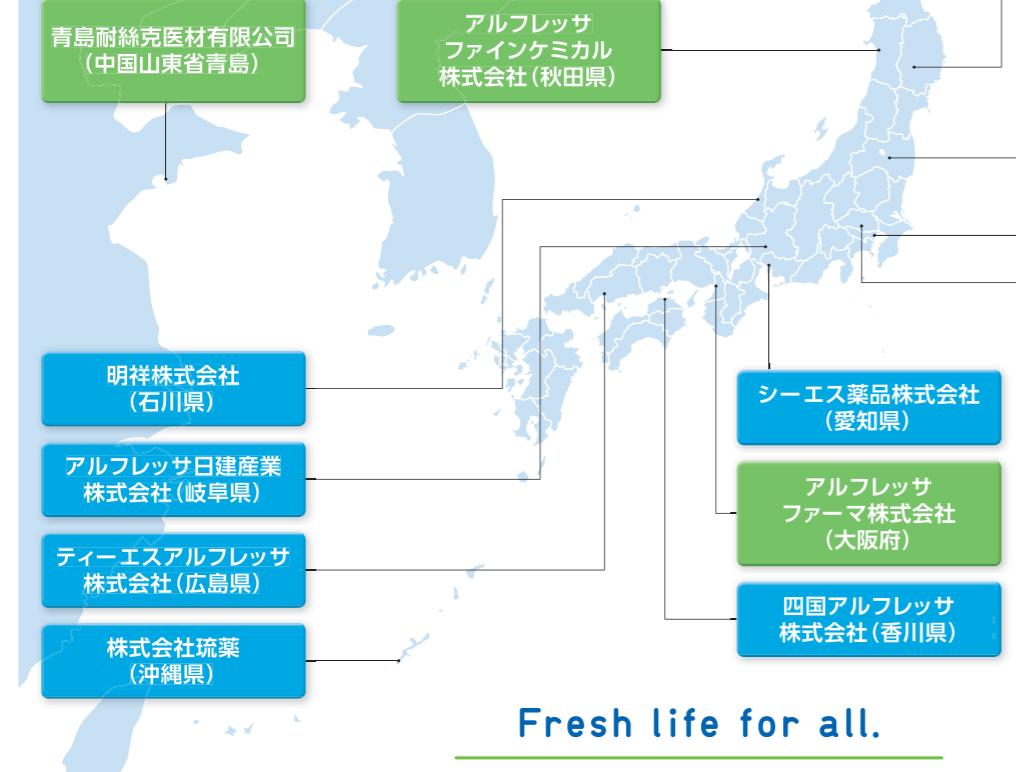
予防、診断、治療の総合的な観点から、医薬品、診断薬、医療機器の3つの分野で製品を製造・販売しています。特色や存在感のある製品の研究・開発・製造・販売や、輸出入を通して、国内外で人々の健康に貢献しています。



医療関連事業

中期経営計画で掲げる「ヘルスケアコンソーシアムの実現」に向けて、アルフレッサグループは事業領域の拡大への積極的な投資を行っています。医療関連事業セグメントに含まれる調剤薬局事業などを通じて、さまざまな医療関連ニーズにお応えしています。

(連結子会社)
■ 医療用医薬品等卸売事業
■ セルフメディケーション卸売事業
■ 医薬品等製造事業
■ 医療関連事業
■ 情報システムの運用・保守および開発事業



Fresh life for all.

すべての人に、いきいきとした生活を。

alfresa group

事業トピックス

ティーエスアルフレッサ(株)の誕生

2015年4月、当社グループで医療用医薬品等卸売事業を展開する成和産業(株)と常盤薬品(株)が合併し、ティーエスアルフレッサ(株)が誕生しました。経営資源を有効活用し、地域に密着した営業基盤のさらなる強化を図ります。



(株)茂木薬品商会がグループへ参画

2014年10月、アルフレッサ ヘルスケア(株)が、(株)マツモトキヨシホールディングスの傘下でセルフメディケーション卸売事業を行っていた(株)茂木薬品商会を完全子会社化しました。これにより、セルフメディケーション卸売事業のより一層の強化を図ります。



アルフレッサ ファインケミカル(株)の発足

2015年4月、アルフレッサ ファーマ(株)は、第一三共プロファーマ(株)の秋田工場を譲り受け、完全子会社化しました。同工場はアルフレッサ ファインケミカル(株)として事業を開始しました。



海外ドラッグストア1号店を開店

2014年5月、中国・大連において、成大方元医薬連鎖投資有限公司、(株)ココカラファイン、伊藤忠商事(株)および当社の4社合併で設立した遼寧康心美商業連鎖有限公司が、ドラッグストア第1号店を開店しました。今後、中国におけるドラッグストア事業を推進していきます。



「医療関連事業セグメント」を新設

2015年3月、調剤薬局事業を行う(株)日本アポックの株式を(株)ヤオコーより譲り受け、子会社化しました。また、同事業を行う当社子会社のアプロメディカルホールディングス(株)とあわせて「医療関連事業」として両社を位置づけ、新たなスタートを切りました。



トップメッセージ

すべての人に、いきいきとした生活を
創造しあ届けするため、
ヘルスケアコンソーシアムの実現を目指し、
さらなる変革に挑戦し続けます。



社会的使命を果たし、人々の健康と生命を支える

アルフレッサグループは、グループ理念に掲げる「すべての人に、いきいきとした生活を創造しあ届けします」という「私たちの思い」のもと、健康・医療に関わる幅広い分野で事業を展開しています。

特に医薬品流通は人々の健康と生命を支えるインフラであり、途絶えさせてはならない社会的使命を負っています。このためアルフレッサグループでは全国に毛細血管のようにきめ細かな物流ネットワークを構築し、お客様のもとに迅速、かつ確実に必要な医薬品をお届けする体制を整えています。

医薬品の安定供給という私たちの責務は、災害時にも不变です。2011年の東日本大震災では、沿岸部の支店・営業所が地震と津波により大きな被害を受けましたが、私たちの使命を果たすべく、グループ内で連携して、お客様へ

の安定供給に全力を尽しました。震災を踏まえて、BCP(事業継続計画)を再精査し、基幹システムにおけるディザスターリカバリー※の構築のほか、グループ内での商品供給マニュアルの見直しや定期的な災害訓練の実施など、災害対策を強化しています。震災の記憶を風化させることなく、医薬品流通というインフラを担う責任をしっかりと果たしていきます。

※ディザスターリカバリー：
被災したコンピューターシステムを速やかにバックアップシステムに切りかえること

変化する経営環境への対応

高齢化の進展や医療費の増大などを背景に、私たちを取り巻く経営環境は、昨今大きく変化しています。2014年度は、薬価の引き下げ、ジェネリック医薬品の急速な浸透の影響を受け、医療用医薬品市場が17年ぶりに2.7%のマイナ

ス成長となるなど厳しい事業環境でしたが、アルフレッサグループでは、事業体制の強化に向けてさまざまな施策を実施しています。

医療用医薬品等卸売事業では、業界の最重要課題である「流通改革」を着実に推進するとともに、引き続きお客様サービスの向上と業務の効率化に取り組んでいます。また医療ニーズの多様化を受け、希少疾病用の医薬品や特殊な温度管理を必要とする医薬品など、スペシャリティファーマにも対応できる体制を整えてきました。

一方、セルフメディケーション卸売事業では、付加価値の高い専売商品の販売注力などにより安定的に利益を確保できる体質へと転換してきました。

さらに、医薬品等製造事業では、抗けいれん剤や迅速診断キット等のPOCT(Point-of Care Testing)分野の製品ラインナップ拡充で市場シェアの拡大と利益の確保を図ります。

ヘルスケアコンソーシアムの実現に向けて

2014年度は、「13-15中期経営計画 変革への挑戦～次なる頂を目指して～」の2年目となり、健康・医療に関するあらゆる商品・サービスを提供できる「ヘルスケアコンソーシアム」の実現に向け、事業領域とエリアの拡大への取り組みを継続してきました。

その一環として、2015年4月には完全子会社の成和産業(株)と常盤薬品(株)を統合して、ティーエスアルフレッサ(株)とし、中国エリア等での営業体制の強化を進めています。また、アルフレッサ ファーマ(株)が第一三共プロファーマ(株)の秋田工場を譲り受け、同年4月よりアルフレッサファインケミカル(株)として、グループ初となる医薬品原薬工場を稼働させています。さらに、同年3月には、埼玉県を中心に調剤薬局事業を行う(株)日本アポックを子会社化いたしました。

国内に限らず海外でも事業拡大を進めており、2014年5月には中国・大連において、成大方圓医薬連鎖投資有限公司、(株)ココカラファイン、伊藤忠商事(株)、および当社

の4社合併で設立した遼寧康心美商業連鎖有限公司がドラッグストア第1号店を開店しました。

このようにヘルスケアコンソーシアムの実現に向け、アルフレッサグループは一歩ずつ、着実に歩みを進めています。

共に働く人々へ

諸制度の改革や、少子高齢化による市場構造の変遷、医薬品構成の変化やユーザーニーズの多様化など、医療と健康をめぐる環境は今後も速いスピードでの変化が見込まれます。その変化に柔軟に対応しつつ、さらなる成長基盤への投資と事業領域の拡大により、私たちはヘルスケアコンソーシアムを実現していかなければなりません。

アルフレッサグループの一員として共に働く人々には、医療機関や薬局様、患者様のニーズを的確に汲み取り、貢献していくという姿勢を常に忘れないでほしいと願います。また、各人が自分の仕事に誇りを持ち、業務のあり方を常に見直し改善を進めていくことが必要です。ヘルスケアコンソーシアムを実現するのは、それぞれの持ち場で「一隅を照らす」共に働く人々の力にほかならず、誰一人が抜けても成り立たないものだと私は考えます。

さらに、多様化するニーズに応えるためには、新たな時代を拓く人財の育成と多様性(ダイバーシティ)が不可欠です。当社では2015年6月より、2名の女性社外取締役を迎えた体制となりました。取締役会をはじめとするダイバーシティが、グループ全体を牽引していくことを期待します。

今後もヘルスケアコンソーシアム実現に向けて持続的な成長を図ることで、すべての人の健康に幅広く貢献しつつ企業価値を一層高め、幅広いステークホルダーの皆様の信頼にお応えしていこうではありませんか。

代表取締役社長
石黒 傳六

石黒傳六

特集：

人々の健康と生命を支える医薬品流通



「医薬品卸」が社会に果たす役割とは

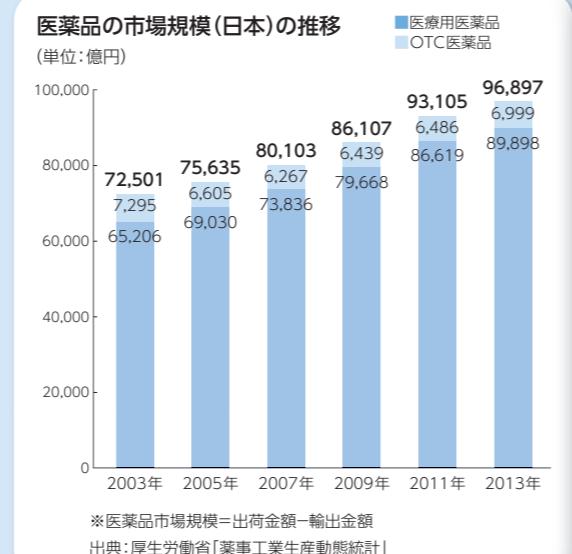
医療と医薬品をめぐる社会的背景

病気やけがの治療に使われる処方箋が必要な医薬品や、薬局やドラッグストア等で生活者が処方箋なしで購入できる医薬品。これらは、医薬品メーカーから医療機関や薬局、店舗に直接届けられるのではなく、その舞台裏では、私たちアルフレッサグループのような「医薬品卸」と呼ばれる医薬品流通のプロフェッショナルが活躍しています。

日本では20年ほど前から、医薬品を「処方する場所」と「調剤する場所」の切り分けを行う「医薬分業」が進展しました。これを受け、調剤薬局や調剤部門を併設するドラッグストアなどが増加しています。処方箋を持った患者様が調剤薬局を訪ねれば、必要な医薬品が必要な量、タイミングに手に入れることができるよう、私たち「医薬品卸」に求められる役割はますます高まっています。

一方で、超高齢などを背景に国民医療費が39兆円(2012年度)にまで達する現在、この医療費負担を軽減するために、「国民一人ひとりが、自分の健康に責任を持ち、軽度な症状は自分で治して健康維持に努める」という「セルフメディケーション」が国によって推進されています。スイッチOTC[®]など高機能、高付加価値の一般用医薬品の登場と生活者への浸透が進む中、セルフメディケーションを支える中間流通業としての期待も高まっています。

*医療用から一般用に切り替わった(=スイッチした)医薬品



医薬品の種類とその特性

用途や効能別に数万品目が展開される医薬品は、大きく2つに分類できます。1つ目は、医師が病院で治療のために使用したり、医師の診断・処方を受けて、調剤薬局などで患者様が処方箋をもって購入する医療用医薬品です。2つ目は、生活者がドラッグストアなどで、処方箋なしで自らの選択で購入し、使用する一般用医薬品(OTC:Over The Counter Drug)です。

いずれも人々の健康や生命に直接影響のある商品であるため、その取り扱いをめぐっては、製造から流通、使用に至るまで、薬機法をはじめとする法律によって厳しい規制が設けられています。アルフレッサグループでは、医薬品が安心・安全に使用されることを第一に考え、すべてのプロセスにおいて法令遵守を徹底し、医薬品の製造出荷時における品質を劣化させることなく、必要とされる場所へスピーディーに医薬品をお届けしています。

医療用医薬品と一般用医薬品の比較

	医療用医薬品	一般用医薬品
使い分けの例	症状が重い	症状が軽い
使用の契機	医師の処方	自らの判断
使用目的	治療	症状緩和 未病改善

医療用医薬品等
卸売事業

セルフメディケーション
卸売事業

*参考:厚生労働省「医療用医薬品と一般用医薬品の比較について」

医薬品は、人々の健康や生命に関わる商品であり欠かすことができません。患者様が病院に行っても、もしそこに医薬品がなければ治療ができないという事態も発生します。医薬品が「必要なときに」「必要な場所」になければ、実際に人々のお役に立つことはできません。医薬品メーカーの医薬品を、「必要なときに」「必要な場所へ」お届けしているのは、私たち「医薬品卸」です。医薬品が「人々の健康に役立つ」環境をつくるため、アルフレッサグループの医薬品流通の取り組みをご紹介します。

アルフレッサグループの医薬品等卸売事業の売上高は約**2.4兆円**。

全国**47**都道府県のお客様へ、

3,824人のMS^{※1}、**2,732**人の配送担当者により、商品・サービス・情報を届けています。

医薬品などを届けるために使用する車両の総走行距離は約**168,454**kmで、

日本中の道路を約**132**回走行する距離に匹敵します^{※2}。

※1 MS:マーケティングスペシャリスト(医薬品卸販売担当者)

※2 日本の道路の総延長は1,273,620.4kmとして換算(出典:道路統計年報2013)

* 当社グループに関する上記の数値は2014年度のものです。

医療用医薬品等卸売事業 ~医療に欠かせない医薬品とその情報を全国にお届けし、また効果や副作用情報を収集する~

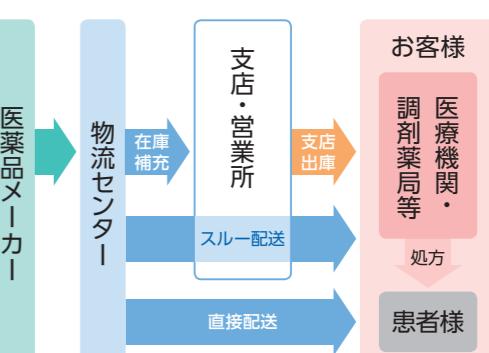
医療の現場で医師が必要とする薬、あるいは処方箋によって患者様が調剤薬局で購入する薬は、品切れが許されません。これを可能にしているのが、私たちが行う「医療用医薬品等卸売事業」です。

国内の約23万力所の医療機関や調剤薬局などのお客様へ、約1万8千種にのぼる医療用医薬品などから、現場で日々必要とされる医薬品を、毎日絶やすことなくお届けしています。

全国津々浦々のお客様へ医薬品を届けるという社会的使命を果たすため、グループ各社の連携によるネットワークの拡充と物流機能の高度化を進めています。医療用ならではの緊急性や季節変動によるニーズにも沿ったきめ細かな対応と、効率性も重視した物流システムをバランスよく両立していくことをを目指しています。

私たちは医薬品メーカーと診断や治療を行う医師、調剤薬局とをつなぐ役割を担っている以上、それぞれの皆様との信頼関係が欠かせません。商品の品質を守ることはもちろん、適正使用のための情報などを医薬品メーカーから絶えず収集し、それを現場の医師や薬剤師にご提供していくとともに、効果や副作用情報を収集し医薬品メーカーにフィードバックすることで、安心・安全な医療に貢献しています。

医療用医薬品の流れ



【配送の種類】

直接配達:

物流センターから直接お客様にお届けする

スルーフェードル:

物流センターで荷捌えを行い、支店等を中継してお客様にお届けする

支店出庫:

支店にある在庫で荷捌えし、急ぎの配送等にも柔軟に対応



セルフメディケーション卸売事業 ~一般用医薬品などの流通を担い、人々の日々の健康をサポートする~

セルフメディケーション卸売事業は、一般用医薬品を中心に健康食品、サプリメント、化粧品など約2万品目にも及ぶ幅広い商品を取り扱い、人々の多様なニーズに応えています。

医師の処方が不要な一般用医薬品は、医療用医薬品と異なり、インターネットやメディア等を通じて、生活者自らが情報を得て購入を決めます。生活者のニーズを的確に捉え、それぞれの生活者に適切な商品を選んでもらえるよう、ドラッグストアなどのお客様と連携し、情報提供するための取り組みが欠かせません。私たちは中間流通業としてのノウハウを活かし、商品の構成や陳列・棚割、店頭POPなどの提案に注力しています。

社会的インフラとしての医療用医薬品流通

アルフレッサグループにおける医療用医薬品の流れ(バリューチェーン)



震災対応の最前線で果たした 「医薬品の安定供給」という使命 ～東日本大震災時の奮闘～

平時にも増して、医薬品の安定供給が求められるのが大災害などの非常時です。2011年3月11日に発生した東日本大震災において、「医薬品をお届けすること」に一丸となって取り組んだアルフレッサグループ各社。震災から4年半余りが経過した今、震災を経て改めて認識した「私たちの役割」と、貴重な体験を共に働く人々にも伝えています。

株式会社小田島の取り組み

津波により、当社でも釜石支店と陸前高田支店が全壊しました。花巻市内にある私たちの物流センターでも、大きな揺れで倉庫内の商品が床に散乱するなどしました。停電により情報が断片的にしか入ってこない中、当日の夜には県から医薬品供給に対する協力要請がありました。震災発生の翌日は土曜日で休日でしたが、商品が散乱した倉庫でこの先被災地で必要になると思われる医薬品を、社員が手作業で寄り分けていました。

—被災地に医薬品を届けるためとった行動とは?

まず、岩手県医薬品卸業協会として、県知事宛てに陳情書を書き、優先給油の許可をもらいました。医薬品メーカーからは大量の医薬品の寄付がありましたが、県の用意した支援物資集積所ではほかの救援物資に埋もれ、被災者には届かないと思い、当社物流センターの利用を申し出ました。これにより翌日には各地の避難所へ届けることができました。また、当社の物流センターに卸7社の医薬品を持ち込み、協力して共同配送を行いました。燃料不足のために考えた苦肉の策ですが、皆が「被災者のために何とか薬を送り届けなければ」という一心で考え、行動しておりました。

株式会社恒和薬品の取り組み



株式会社恒和薬品
物流部長 兼 医薬品センター長



天井崩落と医薬品が散乱する物流センター

て、毎日医薬品を安定的に配送してもらい、当社の物流センターでの在庫を通常の倍にまで増やすなど、在庫の確保に努めました。グループ各社からはさまざまな支援物資を得ることができ、グループとしてつながりが精神的な支えになりました。また、営業所では、電話が通じない医療機関や調剤薬局等のお客様を社員が直接訪問して状況を確認し、対面で注文を受けるなどして緊急ニーズに対応しました。その後も数ヶ月にわたり、震災の影響で渋滞する道を何時間もかけて、お客様への訪問を毎日続けた社員も少なくありません。

—震災から4年半を経て、現在の復興状況は?

石巻営業所をはじめ、震災によって建物が被害を受けたところは修築を行い、原発事故の影響で移転していた南相馬営業所は、震災発生以前のものとの場所にて再スタートを切ることができましたが、医療機関・調剤薬局等の震災後の移転や看護師不足による休業など、現在でも震災前と同じ営業状況とはいえません。しかし、「医療機関や調剤薬局等がある限り、必要とされる医薬品を届け続ける」という想いは、震災を経て社員の間で一層強まつたと思います。震災と原発事故の混亂の中で奔走していた当時、お客様からいただいた「医薬品を届けてくれたおかげで診療・調剤を続けることができた」という感謝の言葉は、今も私たちの励みになっており、その期待に今後も応え続けていきます。

—非常に際し、やり続けたことは?

「医薬品がなければ、医療は成り立たない、どんなことがあっても薬を途絶えさせてはいけない」という滝田社長の一貫した言葉通り、アルフレッサ(株)の埼玉物流センターからの10トントラック2台によっ



現地取材トピック

「薬を届けることは我々にしかできない」

日頃培ってきた信頼関係のもと、
被災地で医薬品を運び続けた日々



株式会社小田島
岩手営業部 釜石支店長 兼 陸前高田支店長
菊池 祐一



私たちの思い
めざす姿

として築いてきた信頼関係があつてのこと、だからこそ非常時にも生命に関わる大事な商品をお任せいただけたのだと思います。震災の翌年には、地域の再興のため、沿岸部にも医薬品の流通拠点が不可欠との判断から、同じく被災した陸前高田支店を併設し、新たな釜石支店・陸前高田支店として標高70mの高台で再スタートを切りました。それぞれの立場から共に復興に取り組むお客様との絆は、震災を経てより強固になったと感じています。

震災の貴重な体験で改めて実感した医薬品卸にしかできない自分達の役割を、グループで共に働く人々に伝えていきたいと思います。



津波が直撃した釜石支店



高台で再スタートを切った釜石支店・
陸前高田支店

海の前にあった釜石支店は、社屋自体が津波で完全に消失しました。社員の犠牲者が出来たことは大変な救いでしたが、その後一切の通信手段を失い、医療機関などお客様の状況等は全く分からず状況になりました。瓦礫だらけとなった道を通り、被災した病院や仮設の診療所を訪ねると、地域の人々が溢れ、震災による負傷者や体調不良を訴える方はもちろん、「いつも飲んでいる薬がない」とことへの不安を抱えた患者様がたくさんおり、医師の方々は治療のためのさまざまな医薬品の速やかな到着を望んでいらっしゃいました。

使用できた車両2台でお客様に直接注文を聞きに行き、周辺で唯一電話がつながった遠野市まで車を走らせて物流センターに発注をかけ、届いた医薬品をまた数時間かけて配達するという日々が続きました。

食事をとることさえままならぬ状況の中、体力的には大変きつい毎日でしたが、「薬を届けることは我々にしかできない」という使命に突き動かされるように、社員皆が無我夢中でした。薬をお届けすると、医師も患者様も本当に喜んでくれ、「ありがとう」の言葉に苦労を忘れました。その役割が果たせたのは、平時から医薬品卸

アルフレッサグループ全体で取り組む災害対策

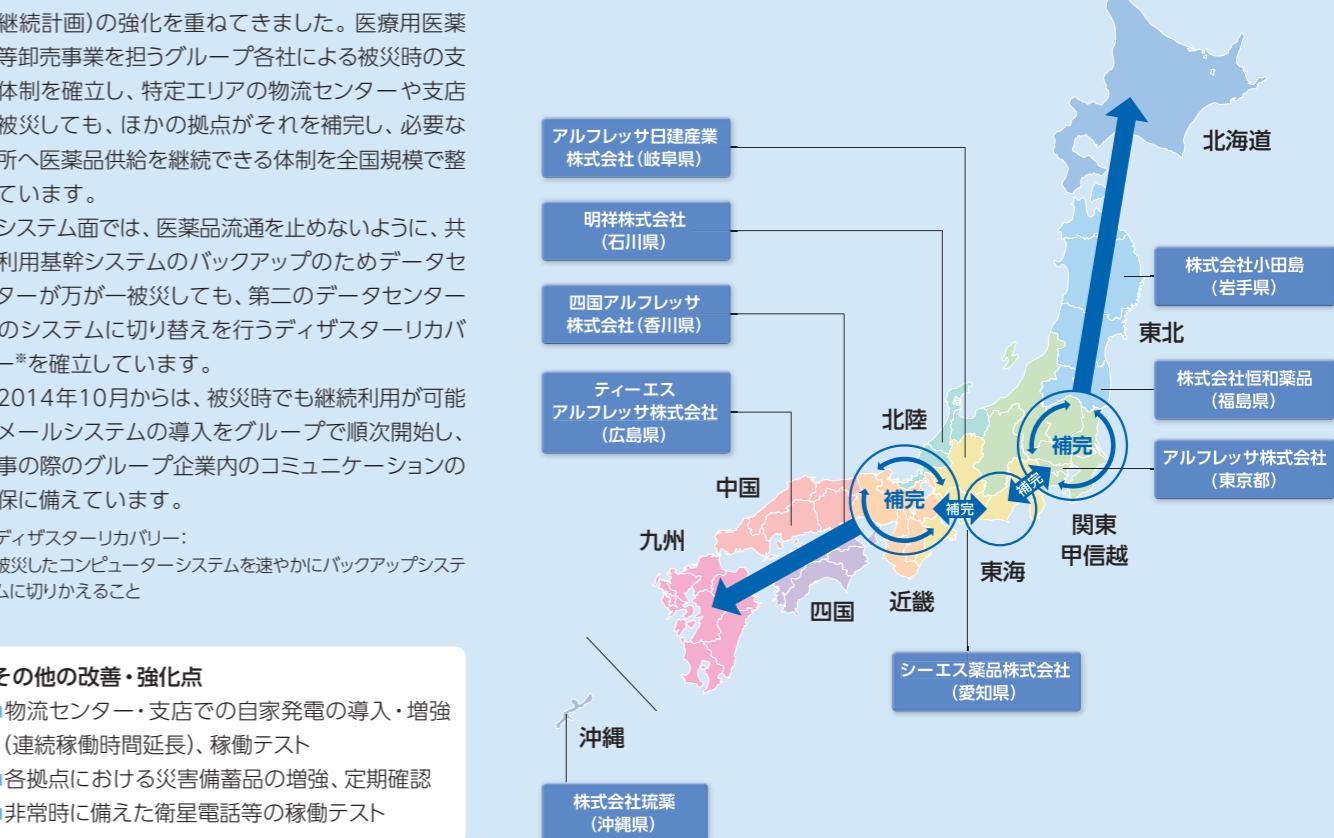
東日本大震災による教訓も踏まえ、アルフレッサグループでは大規模災害等の発生に備えたBCP(事業継続計画)の強化を重ねてきました。医療用医薬品等卸売事業を担うグループ各社による被災時の支援体制を確立し、特定エリアの物流センターや支店が被災しても、ほかの拠点がそれを補完し、必要な場所へ医薬品供給を継続できる体制を全国規模で整えています。

システム面では、医薬品流通を止めないように、共同利用基幹システムのバックアップのためデータセンターが万が一被災しても、第二のデータセンターへのシステムに切り替えを行うデイザスター・リカバリー*を確立しています。

2014年10月からは、被災時でも継続利用が可能なメールシステムの導入をグループで順次開始し、有事の際のグループ企業内のコミュニケーションの確保に備えています。

*ディザスター・リカバリー:
被災したコンピューターシステムを速やかにバックアップシステムに切りかえること

アルフレッサグループのBCP(事業継続計画)



その他の改善・強化点

- 物流センター・支店での自家発電の導入・増強(連続稼働時間延長)、稼働テスト
- 各拠点における災害備蓄品の増強、定期確認
- 非常時に備えた衛星電話等の稼働テスト

セルフメディケーション卸売事業の役割

～中間流通業として生活者のトータルヘルスケアを支える～

「人々の精神(こころ)と身体(からだ)のトータルヘルスケア」を目指し、すべての人々の健康をサポートするのが、「セルフメディケーション卸売事業」です。多様化する生活者のニーズを捉えた商品提案と、スピーディーな商品の供給体制によって、全国の薬局・薬店やドラッグストアなどの小売業を営むお客様の信頼にお応えしています。

アルフレッサグループの中で、セルフメディケーション卸売事業を担うのが、アルフレッサ ヘルスケア(株)です。

中間流通業に求められる役割を遂行するための取り組み状況についてご紹介します。



高まり続けるセルフメディケーションのニーズに応えるために



取締役 執行役員 経営企画部長
野田 晃

現代社会における食生活の変化やストレスなどから「病院に行くほどではないものの、何とか不調を感じる」という未病の状態を抱えた人が増えています。また、伸び続ける国民医療費を抑えるため、行政は軽い症状は自ら治す「セルフメディケーション」を推奨しています。こうした流れの中で、一般用医薬品が担う役割は大きくなってきています。

例えば「胃が痛い」という症状でも、それに対応する一般用医薬品は数多くあり、原因や程度に適したものを選択していただけるよう、当社ではお客様であるドラッグストアなどが、生活者に対して効果的な情報発信をできるよう取り組んでいます。店頭に設置する電子POPの制作や来店した生活者の方に手に取っていただきやすい売場の提案に努めるなど、商品の価値を効果的に伝える役割も私たちは担っています。

全国をカバーする効率的な物流ネットワークの構築

物流を担う我々の使命は、全国のドラッグストアなどのお客様へ迅速かつ正確に商品をお届けすることです。

それに応えるべく全国に適正な物流拠点を配置し、スピーディーなデリバリーを可能としました。また、各物流拠点では、当社が取り扱う約2万品目もの商品から地域特性を勘案した品揃えによりお客様のニーズに対応しています。

物流業務は、倉庫内の運営や配達業務を委託しているパートナー企業との協働体制のもと、さらに高い精度や低コスト化へ向けた物流体制の進化を重ねています。また、品質・鮮度管理の維持向上にも努め、グループ理念に謳われている「安心・安全」を実現しています。これらの取り組みを評価され、お客様やお取引先様より厚い信頼をいただいている。



管理本部 物流部長
榎本 升一

システムの安定稼働でスムーズな医薬品流通を支える

当社の1日あたりの受注データ件数は約30万行にもおよびます。受注を確実に処理していくためには、EOS (Electric Ordering System: 電子受注システム) の活用は不可欠であり、現在は当社の全受注処理の97.5%がEOSによる受注です。事業の土台となるシステムを365日トラブルなく稼働させることの難しさを感じながら、全国のスムーズな医薬品流通を支えているという使命感と誇りを持って日々業務に取り組んでいます。

昨今、チェーン展開するドラッグストアや総合スーパーなどでは独自の物流機能を持つことも少なくありませんが、そうした場合にも機敏にお客様仕様に合わせたシステム構築を行っています。



管理本部 システム部長
岸 進

「健康に貢献する」より良い商品を世の中に広める

アルフレッサグループの一員として、人々の健康にトータルに貢献する「ヘルスケアコンソーシアム」の実現のため、優れた商品を世に広めていくことも私たちの重要な役割です。

日本が超高齢社会を迎える中、健康寿命を保っていただきたいという想いから、病気予防のための健康食品も展開しています。その他、女性の快適な暮らしをサポートする生理関連用品や子どもの体内環境をサポートする乳酸菌サプリメントなど、国内外で開発され確かな実績を築いてきた商品を発掘し専売しています。健康に貢献する商品を見出したり、企画したりする力は、私たちならではの強みと自負しています。



経営企画部 グループ長
加藤 典之

人財を生かした高い提案力の営業を

当社は、「人々の健康をサポートする生活に不可欠な社会インフラを担っている」と自負し、日々の業務に努めています。そうした責任ある立場からお客様のニーズに合ったより価値の高い商品をお届けすべく、提案営業に注力しています。その提案のクオリティのさらなる向上を図るべく、当業界のマーケティングに精通する講師を招いて継続的な研修を実施し、MS(医薬品卸販売担当者)の提案力強化に取り組んできました。その結果、お客様からは、より一層の信頼をいただくなど着実に成果として現れてきています。

また、営業支援次世代ITツールの開発やスマートフォンの活用によりお客様へスピーディーな各種情報提供を可能とする仕組みを構築するなど、提案営業を強力に推進しています。

私たちの事業では、何より人財が最大の資産です。人々の健康に貢献したいと願う社員の働きがいをビジネスの原動力として、多方面にわたるステークホルダーの皆様を意識しながら、その満足度を高めています。



執行役員 管理本部 総務人事部長 兼 内部統制担当
宮原 孝浩

お客様の信頼獲得に向けて、着実に歩んでいます。

2011年10月より、アルフレッサグループの一員として新たなスタートを切ったアルフレッサ ヘルスケア(株)。ヘルスケアコンソーシアムをめざしたグループ規模とそのシナジーにより、競争が激化する一般用医薬品卸業界においても「安心して取引ができる存在」として、お客様からの信頼を得て着実に歩んできました。毎年2月に東京・大阪で開催する一大イベント「ライフサポートフェア」も、2014年度の出展メーカー様は過去最多を数え、「本格的セルフプリベンションの幕開け」をテーマにした展示会で、ドラッグストアや薬局のお客

様から好評をいただきました。生活の中ではますます一般用医薬品の重要性が高まる中、提案の質向上や多様なニーズへの迅速な対応により、お客様や社会の期待に応え続けます。



ライフサポートフェアの様子

アルフレッサグループのCSR

グループ理念と中期グループ経営方針に基づいたCSR経営の推進

アルフレッサグループは、グループ理念で掲げる「すべての人に、いきいきとした生活を創造しあげます」という「私たちの思い」の達成に向けて、健康に関するあらゆる分野の商品・サービスを提供できる「ヘルスケアコンソーシアム」の実現を目指しています。

2013年度から開始した「13-15中期経営計画 変革への挑戦～次なる頂を目指して～」の中の「13-15中期グループ経営方針」に合わせ、社会から信頼される企業グループを目指



CSR推進体制とCSR推進委員会

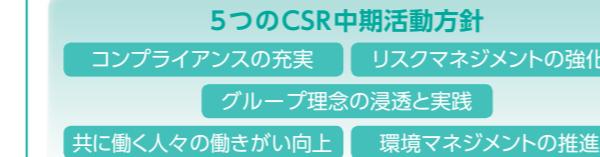
CSRを推進する最高機関として、アルフレッサ ホールディングス(株)および、グループ各社の経営層から選定されたメンバーで構成されるCSR推進委員会を設置しています。

CSR推進委員会は、グループ全体のCSRに関する重要な方針等の協議を行うほか、グループ各社におけるアクションプランに基づいた活動の報告・評価などを行うために、年に3回定期的に開催しています。

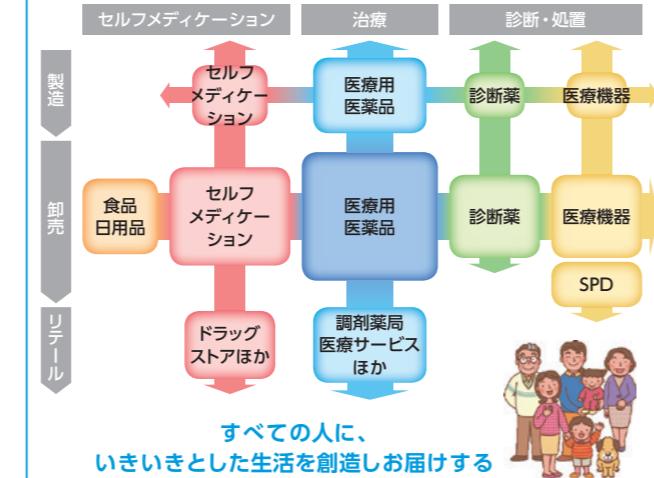
そのため「5つのCSR中期活動方針」のもと、グループ一丸となったCSRマネジメント推進に取り組んでいます。

健康・医療に関する事業は、人の生命に直接関わる重要な事業であることから、事業活動そのものがCSR活動であるという認識のもと、製造事業からリテールに至るすべてのサプライチェーンにおいて社会から信頼される企業グループを目指しています。

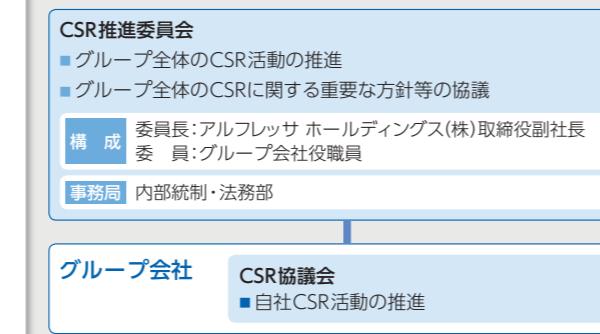
社会から信頼される企業グループを目指して



ヘルスケアコンソーシアムの実現を目指して



アルフレッサグループCSRマネジメント体制



CSRマネジメント

CSR活動を着実に推進するために、CSR中期活動方針に沿って、年度ごとの活動方針に基づいて取り組んでいます。

	2014年度の活動方針	2014年度の活動実績	自己評価	関連ページ
グループ理念の 浸透と実践	グループメッセージによるグループ理念の浸透推進 グループ統一活動によるCSR意識の引き上げ	・グループメッセージの各社資材等への展開と社内掲示用ポスターによる啓発 ・グループ統一活動の実施	○	P15-16
共に働く人々の 働きがい向上	多様な人財の育成と活用 仕事と家庭の両立可能な労働環境の整備 労働時間管理の強化と業務効率化の推進 健康増進およびメンタルヘルスの強化	・女性の積極的採用、女性管理職の登用 ・育児介護支援施策の啓発・拡充 ・時間外勤務削減の取り組み（ノー残業デーの推進等） ・有給休暇取得促進活動実施 ・健康診断受診と有所見者フォローの実施 ・メンタルヘルス研修等のメンタルヘルス対策を実施	○ △ ○	P21-22 P23-24 P23-24
コンプライアンスの 充実	コンプライアンス研修の充実（不正防止対策の強化） コンプライアンス相談窓口対応の継続と利便性向上 交通安全への取り組み強化	・各種コンプライアンス研修実施 ・コンプライアンスハンドブックの利用啓発 ・コンプライアンス相談窓口に加えて社外相談窓口設置 ・運転監視装置導入車両拡充	○	P27-28 P28
リスクマネジメントの 強化	BCPの見直し、災害対策の強化 情報管理体制の強化	・メールシステム災害対策強化 ・安否確認結果伝達訓練 ・災害用備品等追加配備 ・メールシステムのセキュリティ強化	○	P12 P29
積極的な社会貢献	地域交流の推進 社会福祉への貢献 NPO等の活動支援	・地域清掃活動への参加 ・こども110番運動の取り組み ・献血活動への参加 ・車椅子の寄贈 ・エコキャップ運動への参加	○ ○ ○	P31-32
環境マネジメントの 推進	電力使用量の削減 省エネ車両への切り替えとエコドライブの推進	・節電の取り組み推進 ・省エネ車両への切り替えとエコドライブ推進活動実施	○	P33

自己評価: ○ 計画通りに進捗 △ 若干の課題あり

グループ統一活動*について

グループ統一活動として、2014年度は「アルフレッサグループ交通安全運動」「グループ各社安否確認結果の災害対策本部への伝達訓練」に取り組みました。

「アルフレッサグループ交通安全運動」は、全国交通安全運動期間に合わせ、春と秋の年2回、日頃からの安全運転および安全意識の啓発に加え、特に注力して行う活動期間として実施しています。

「グループ各社安否確認結果の災害対策本部への伝達訓練」は、災害時を想定し、グループ各社で実施した安否確認訓練結果を衛星電話によりアルフレッサ ホールディングス(株)の災害対策本部に伝達する訓練で、一定期間を定めグループ各社で一斉に実施しました。

また、災害対策の一環として、共に働く人々へ「自然災害ハンドブック」および「災害時連絡・救急カード」を配布しました。自然災害ハンドブックには、職場や家庭での災害時における対処方法等を掲載しており、災害時連絡・緊急力カードでは、災害にあった際の連絡方法をはじめ、アルフレッサグループの理念体系を掲載しています。

TOPIC

総合方法をはじめ、アルフレッサグループの理念体系を掲載しています。

今後も引き続き、グループ統一活動を通じて、交通事故の削減や災害への備えの強化に取り組んでいきます。

* グループ統一活動: グループで共に働く人々が一体となり、「安心」「安全」「誠実」な事業活動を行うというアルフレッサグループの理念を体現することを目的とした取り組み



自然災害ハンドブック
災害時連絡・救急カード

私たちには、常にお客様が満足を得られる 安心できる商品・サービスを安定的に提供します

アルフレッサグループは、お客様が必要とする商品やサービスを迅速かつ確実にお届けし、情報提供やシステムによるサポート等も通じて、お客様の満足の向上および信頼の獲得に努めています。

医薬品等の安定供給に向けて

安定供給についての方針

当社グループは、医薬品、医療用検査試薬、医療機器・用具など、人々の健康や生命に関わる幅広い商品を扱っています。医薬品流通を通じて医療に関わる社会的なインフラを担う企業グループとして、全国津々浦々のお客様へ商品を安定的にお届けするための供給体制を整備しています。

医療用医薬品等卸売事業

—物流機能の高度化—

当社グループは、グループ物流構想を掲げ、エリアを重視した物流拠点の効果的配置によって、お客様のニーズとローコスト経営をバランスよく満たす物流体制の構築に取り組み、全国を19の物流センターと4つの医薬品センターでカバーしています。

2015年1月には、沖縄において(株)琉葉の新本社・物流センターが稼働し、さらにアルフレッサ(株)では「大阪物流センター」が2015年9月に稼働予定です。

医薬品は、人々の生命に直接関わる商品であり、必要な時に、必要な量を、必要な場所へ確実にお届けすることが何より重要となります。最新鋭の物流設備の導入や万全の品質管理およびセキュリティ体制による高度化により、さらに迅速に、また安定供給が継続できる物流体制の強化を図っています。



新本社・物流センターが稼働

(株)琉葉



執行役員
管理本部長 兼
業務システム部長

座喜味 秀盛

TOPIC

当社は沖縄本島の南部に位置し、1951年の創業以来、離島を含む沖縄県全域をカバーし、地域に密着した医薬品の安定供給を行っています。

沖縄県は、メーカーからの納期に時間を要することや、天候による入荷遅延が発生しやすいことから、

備蓄量の確保が必須です。また、人口も増加傾向で将来的な物流量の増加が見込まれていることから、2014年11月に当社の本社社屋ならびに物流センターを新設しました。

新物流センターの建設にあたり、さらなる安心安全な医薬品の安定供給を図るため、物流機能の強化、ローコストオペレーション、セキュリティの強化、BCP対策の4点を最重点課題と位置付けました。

耐震構造はもちろんのこと、津波対策として医薬品倉庫を2階以上に配置し、3階には非常用発電機を設置しました。さらに、敷地内には自家給油所を設置し約10日～20日分の燃料を備蓄するなど防災対策も強化しています。

延床面積は1.6倍、出荷検品スペースは2.5倍に拡大し、備蓄の増加とスムーズな入出荷も実現しました。

物流センターの機能を最大限に活かした運用を目指し、お客様や、お取引先様から選ばれる医薬品卸として今後も地域に貢献していきます。



新本社・物流センター外観



敷地内に設置した自家給油所



屋内の出荷スペースと駐車場により雨天等による商品の汚損を回避

セルフメディケーション卸売事業 —全国ネットワークとお客様満足の向上—

一般用医薬品(OTC医薬品)を中心に健康食品、サプリメント、化粧品などをドラッグストア、薬局・薬店などに販売しています。全国ネットワークによりお客様のニーズを的確に汲み上げ、店頭販促の企画・提案等お客様満足の向上に取り組み、人々のセルフメディケーションを支える中間流通業として企業価値向上を図っています。



棚割のご提案例



お客様と商談中のMS

近畿

- 関西第一支店
- 関西第二支店
- 関西第三支店
- 関西物流センター

九州

- 西日本支店
- 九州第一支店
- 九州第二支店
- 九州物流センター

沖縄

- 沖縄支店
- 沖縄物流センター

東北

- 東北支店(仙台駐在)
- 東北支店(福島駐在)
- 東北物流センター

関東

- 本社
- 関東第一支店
- 関東第二支店
- 東京第一支店
- 東京第二支店
- 広域第一支店
- 広域第二支店
- 広域第三支店
- 広域第四支店
- 静岡支店
- 名古屋第一支店
- 名古屋第二支店
- 金沢支店
- 横浜甲信越支店(横浜駐在)
- 柏配達センター
- MK吉川物流センター
- 北陸物流センター
- 南関東物流センター

中部

- 横浜甲信越支店(甲信越駐在)
- 広域第二支店
- 広域第三支店
- 広域第四支店
- 名古屋第一支店
- 名古屋第二支店
- 金沢支店
- 中部物流センター
- 北陸物流センター

中国・四国

- 広島支店
- 松山営業所
- 広島支店(岡山駐在)

北海道
●札幌支店
●北海道物流センター

関東
●本社
●関東第一支店
●関東第二支店
●東京第一支店
●東京第二支店
●広域第一支店
●広域第二支店
●広域第三支店
●広域第四支店
●静岡支店
●名古屋第一支店
●名古屋第二支店
●金沢支店
●横浜甲信越支店(横浜駐在)
●柏配達センター^{*}
●MK吉川物流センター
●南関東物流センター

中部
●横浜甲信越支店(甲信越駐在)
●広域第二支店
●広域第三支店
●広域第四支店
●名古屋第一支店
●名古屋第二支店
●金沢支店
●中部物流センター
●北陸物流センター

中国・四国

医薬品等製造事業 —一貫したラインを構築—

医薬品等製造事業を担うアルフレッサ フーマ(株)の岡山製薬工場では、2009年12月に岡山製薬工場製剤棟を、さらに2014年1月には医薬品の包装等を行う新棟を稼働させ、医薬品固形剤や体外診断薬等の医薬品の生産能力および包装能力を強化しました。また、生産量拡大による物流量増加を受けて、岡山配達センターを改築し、従前のセンターの1.7倍まで製品の保管能力を高め、医薬品等の製造から物流までの高品質な製品供給機能の更なる強化を図りました。

2015年4月にはアルフレッサ フайнケミカル(株)^{*}もアルフレッサ フーマ(株)の子会社として事業を開始し、医薬品原薬製造等の拡大により医薬品製造事業の基盤の一層の強化を図っています。

*アルフレッサ フайнケミカル(株):
2015年度よりアルフレッサグループに参画

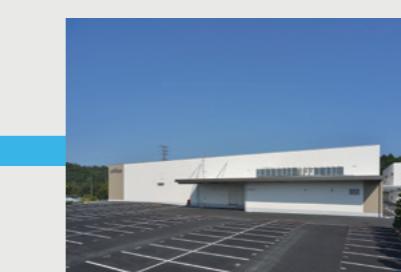


アルフレッサ フайнケミカル(株)

(岡山製薬工場)原材料の輸入から製品の最終出荷までの一貫ラインを構築



製剤棟(2009年12月稼働)



包装棟(2014年1月稼働)



新配達センター(2015年1月稼働)

品質を保持するために

高度温度管理物流

医薬品の中には、スペシャリティファーマ(バイオ医薬品や抗体医薬品)のように、厳格な温度管理が必要とされるものがあります。保管時はもちろんのこと、輸送時においても特定の温度を保持しなければ医薬品としての品質が損なわれてしまうことから、特に厳格な温度管理が必要です。

アルフレッサ(株)では、気密性・断熱性に優れた高機能保温ボックスと、長時間にわたって一定温度の保持が可能な高機能保冷剤であるアイスパッテリー[®]を用いることで、冷所品はもとよりマイナス20℃の冷凍品に至るまで、あらゆる温度帯における長時間の保冷配送を実現しました。

アルフレッサ(株)の高度な温度管理の取り組みをグループ各社にも展開し、安心、安全な物流を実現しています。

温度管理ツールであらゆる温度帯での長時間保冷配送が可能に



品質管理基準に関する国際規格の取得

当社グループでは、お客様への商品・サービスを安全、安定的に供給することを第一に考え、品質管理基準に関する国際規格(ISO9001、ISO13485、ISO27001)を取得しています。

ISO9001(製品及びサービスにおける品質マネジメントシステムに関する国際規格)	アルフレッサ ファーマ(株)千葉工場、 アルフレッサ メディカルサービス(株)
ISO13485(医療機器における品質マネジメントシステムに関する国際規格)	アルフレッサ ファーマ(株)千葉工場、 岡山製薬工場、茨木リサーチセンター
ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステムに関する国際規格)	アルフレッサ システム(株)

お客様の満足度向上のための取り組み

グループにおけるカスタマーサポート

当社グループは、医療の最前線にいるお客様に対し、医療や医薬品に関する各種最新情報の提供をはじめ、IT活用・経営支援、在庫管理などさまざまな面からのサポートを行っています。

システムサポート

医療機関や薬局の在庫管理、受発注業務の効率化などをサポートする機能や各種情報提供機能を備えたシステムを多数取り揃え、お客様の多様なシステムに関わるニーズにお応えするサービスを提供しています。

全社システムサポート内容

医療用医薬品等卸売事業

- 「alf-web」
医療機関向け総合サービスサイト
医療情報および医業経営情報提供
WEBオンライン発注機能
- 「SAFE-DI」医薬品情報提供サービスサイト
- 「Fine Justock EX II」調剤薬局向けクラウド型在庫管理システム
- 「alf-Stock」病院向けクラウド型在庫管理システム

セルフメディケーション卸売事業

- 「CSeye」
新製品情報、店頭販促支援
サイトWEBオンライン
発注機能

タブレット型端末をグループ展開 TOPIC

当社グループでは、営業機能を高度化し、MS(医薬品卸販売担当者)のレベルアップ、およびカスタマーサポートのさらなる充実を図るために、タブレット型端末の導入を進めています。

端末の導入により、業務の効率化はもとより、最新の医薬品情報を正確かつスピーディーにお客様に提供するとともに、医薬品安全管理情報等の効率的な収集を行い、お取引先様への迅速なフィードバックを図っています。

ワクチンスケジューリングシステムの提供開始
TOPIC

ワクチンは、特に乳幼児期に多くの種類を複数回限られた期間内に接種することが有効であるため、医療機関、保護者ともに接種スケジュールの管理が煩雑になっています。このような状況を鑑み、乳幼児の誕生日やワクチン接種履歴から最適な予防接種スケジュールを自動計算し、ワクチン接種情報を医療機関と保護者とで共有できる「ワクチンスケジューリングシステム」をアルフレッサ(株)が開発しました。その後、安全で適正な接種に向けた疫学データの収集と提供のために2014年8月にワクチン安全管理(株)を設立しました。

本システムの改良には、子育て中の二人の女性社員の子どもの、ワクチン接種に関する実体験に基づいた提案が活かされています。

本システムの利用により、保護者は接種可能なワクチンと接種時期が確認でき、ワクチン接種の予約登録が可能のことや、予約日前日のメール配信機能によって、予約忘れや接種漏れを防止できます。医療機関においてはワクチン接種の予約受付やワクチン発注の業務の効率化ができ、不要不急のワクチン在庫を保有する必要がなくなります。

小児へのワクチン等の投与のための安全な環境を整えることは、次世代育成支援の観点からも重要とされることから、アルフレッサ(株)ではさらなるシステムの充実を図り、乳幼児の感染症予防・健康増進に一層貢献していきたいと考えています。



パソコンやスマートフォンで、複数のワクチン接種スケジュールの管理や予約が可能



システム改良に携わる子育て中の女性社員
営業企画部:綾女陽子(左)吉田利佳(右)

お客様満足度調査の実施

シースズ薬品(株)では、お客様に対し配送に関するアンケートを実施しています。集計結果と内容を把握し、今後の業務改善に取り組むとともに、お客様にご満足いただくための施策を展開し、サービスの向上を図っています。

お客様の声を聞く仕組み

お客様から直接いただくご意見は、大変貴重であり、当社グループの活動に活かすよう努めています。ホームページにお問い合わせ先を記載し、窓口を設置しています。

ニーズに対応した商品の開発

アルフレッサ メディカルサービス(株) TOPIC

アルフレッサ メディカルサービス(株)は、病院等の医療機関を対象とした医療材料・医薬品に関するSPD*事業や、お客様と医療材料メーカーを結ぶ医療材料卸売事業を行うほか、プライベートブランド(PB)商品の企画・開発も行っています。

PB商品の開発では10年近い実績があり、包帯・綿棒、サージカルマスクなど約60品目に上る商品を上市しています。2014年度にはプラスチック手袋パウダーフリーを新たに開発しました。

従来、医療の現場で使用するプラスチック手袋は、装着のしやすいパウダー付きの商品をご提案していました。しかし、手荒れを防ぐためのパウダーフリーの商品へのニーズが高まり、それを受けパウダーフリーでかつ装着がしやすい製品を独自に開発しました。素材が柔らかいので、装着しやすく密着感もあるとご好評をいただいている。

今後も医療現場のお客様の声を取り入れた利便性のあるオリジナル商品を開発し、ご提案していくことで、安心・安全な医療環境を支えていきます。



アルフレッサ プラスチック手袋パウダーフリー

*SPD(Supply Processing and Distribution)とは、病院内で使用される医療材料や医薬品等の供給、医療従事者のニーズに応じた加工・病院内各部署への最適配置までを、一元的に管理する院内物流システムです。

私たちちは、安全で働きやすい職場環境の確保・向上に努め、一人ひとりの人格・個性を尊重し、健全な企業風土を創ります

アルフレッサグループで共に働く人々が、心身ともに健全でいきいきとやりがいを持って働き、お客様や患者様にもいきいきとした生活をお届けするために、人財育成を実施するとともに、より働きやすい職場環境の整備を進めています。

人財を活かす取り組み

多様な人財の活用

当社グループでは、共に働く人々自身がいきいきと仕事をすることが、すべての人にいきいきとした生活をお届けすることにつながるとしています。そのため、さまざまな個性を尊重し、適材適所で活躍できるよう配慮しています。

ヘルスケアコンソーシアムの実現のためには、多種多様なニーズを的確にとらえることが重要であるとの考え方のもと、年齢、性別、障がいの有無など、さまざまな価値観の違いを受け入れた上で、個人の能力を最大限に発揮できる環境を整え、多様な人財の活用に取り組んでいます。

人事に関する基本データ(アルフレッサグループ)

年度	2012	2013	2014
従業員数(人)	男	—	—
	女	—	5,429
	合計	13,510	13,434
雇用形態別	正社員	7,618	7,521
	顧問・契約・嘱託	3,321	3,415
	パート・派遣社員	2,571	2,498
MS(営業)職	3,863	3,835	3,824
SA(配送専門)職	2,541	2,641	2,732
新入社員採用数(人)	167	226	213
平均勤続年数(年)	16.0	17.0	16.4

障がい者雇用および高齢者再雇用の状況(アルフレッサグループ)

年度	2012	2013	2014
障がい者雇用人数	226	229	227
高齢者再雇用者数*	830	859	907
単年度の高齢者雇用者数	94	128	133

*60歳以上の雇用者総数(役員を除く)

人財育成

公平な評価のための人事評価制度

当社グループでは、共に働く人々が公平かつ納得が得られる人事評価を実施するよう努めています。

グループ各社では、職能や業績(目標設定)による評価に、「コンピテンシー評価」「自己評価」などを加味した評価制度を導入しています。

人財育成の推進

当社グループは、人財育成を経営上の重要な課題と認識しており、社会から信頼される事業活動が行えるよう、さまざまな教育・研修を展開しています。

具体的には、グループ各社の研修体系に基づく職種別・階層別の教育研修や自己啓発のための通信教育への補助のほか、お取引先様と連携した工場見学や実習をはじめ、次世代の育成を目的としたグループ研修等を行っています。また研修に加えて、グループ内の人財交流やキャリア人財の採用にも取り組んでいます。

実施しているグループ研修

研修名	内容
AEP アルフレッサグループ エグゼクティブプログラム	将来の経営幹部候補の育成を目的として、部長以上を対象に隔年で実施
ASPAC アルフレッサグループ スタディプログラム アブロードコース	グローバルな思考・視点を持った人財の育成を目的として、支店長・部長を対象に隔年で実施
ABS アルフレッサグループ ビジネススクール	若手幹部社員の育成を目的として、課長以上を対象に隔年で実施
アルフレッサグループ フレッシュメンバーズ セミナー	グループ理念の共有などを目的として、グループ各社の新入社員を対象に毎年実施

2014年度はASPACを開催しました。

グループ各社より、18名が参加し、海外における医療制度や医薬品流通の現状、海外の医薬品メーカーの経営戦略等を幅広く学んでまいりました。

公平な人事評価のためのシステム構築

アルフレッサ日建産業(株)

TOPIC

公正な待遇と、働きがいのある職場の実現に向けて社員一人ひとりに期待される成果、プロセス等を明確にした人事評価制度の運用のためのシステムを構築しました。社員自ら設定した目標に加え、所属部門の目標や目標に対する実績、評価履歴を容易に確認できるようになりました。目標の達成度や進捗の管理がしやすくなりました。また、過去の行動反省を次期目標設定に活かしやすくなりました。

今後はこの評価システムをさらに活用できるよう、データ分析を行うことで、社員の行動特性の把握や、能力開発等に活かしていく予定です。

幅広く充実した研修を実施

ティーエスアルフレッサ(株)

TOPIC

2015年4月に、成和産業(株)と常盤薬品(株)の合併により、ティーエスアルフレッサ(株)が発足しました。

「管理者向けハラスメント研修」

旧成和産業(株)

2014年度は、部署長を対象としたハラスメント防止のための研修を実施しました。

研修によって「世代間のギャップを埋めるためにお互いに話し合う機会を持つことが大切」であることや、「だれでもハラスメントの当事者になりうる」ということを各自が認識し、働きやすい環境が業績にも結び付くことを学びました。

「商品の理解を深める工場見学・実習」

旧常盤薬品(株)

日常取り扱う医薬品や医療機器への理解を深める目的で、お取引先様のご協力により、医薬品製造工場見学や医療トレーニング施設での実習を行っています。参加者からは、「製造現場を見るだけでなく、実際に機械を動かすこともできたため、今まで勉強会やパンフレットで知識としてしか知らなかったことをリアルに理解できた」「中心静脈穿刺や抗がん剤の調剤・投与実習等、実際にドクターや薬剤師の先生が日々行っている手技を体験できたので、営業現場での会話や提案に直接活かすことができた」などの感想がありました。これら実際に体験したことを、各人が業務のレベルアップにつなげています。

両社の持つノウハウやメリットを活かし、また役割を明確にし、今年度は能力開発の研修を設け、人財のレベルアップにつなげていきます。

安心して動ける職場環境づくり

仕事と生活の両立を支援

当社グループは、共に働く人々が仕事にやりがいを感じることで生活の満足度を高め、また、共に働く人々の充実した生活が質の高い成果につながると考えています。「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」の実現を目指して、各種制度の充実や、制度を利用しやすい環境づくりに取り組んでおり、育児・介護等に関する制度のほか、共に働く人々のニーズや、グループ各社の特性に即した制度の整備を図っています。また、共に働く人々が心身ともに健康でいきいきと働き、その能力を十分に発揮できるよう、業務の効率化や労働時間の適正化等にも取り組んでいます。

仕事と生活の両立支援に関する実績

年度	2012	2013	2014
育児休業取得者(人)	50	72	73
介護休業取得者(人)	0	6	2

育児休業・短時間勤務制度の拡充

アルフレッサ ファーマ(株)

TOPIC



人事部
高盛 教介

当社では、社内からの要望を受け、育児のための短時間勤務の適用期間を小学校3年生の学年末まで延長しました。また、育児休業の取得期間を子どもが3歳の誕生日を迎えるまでに延長するなど、育児の支援策を拡充しました。

その甲斐もあり、2014年度は、パート社員を含む女性社員の出産を理由とした退職者は0%、育児休業取得者は100%となり、男性社員の育児休業取得もありました。

女性、男性社員用それぞれの「育児休業取得マニュアル」の作成や、制度利用がしやすい風土づくりに向けたマネジメント職への研修実施など、本制度の社内での浸透および利用促進を図っています。

今後は、育児や介護を理由に退職された方の再雇用制度や、男性社員の育児休業取得促進のための制度の策定等を検討していきます。男女問わず、育児だけでなく介護も含め、仕事との両立ができる職場環境を整え、共に働く人々が安心して働き続けることができる企業を目指します。

時間外労働削減の取り組み

グループ各社では、早帰り運動やノー残業デーの設定等により労働時間を管理し、時間外労働に対する管理意識を高めています。また、時間外労働実施時の事前申請を徹底する取り組みなどもグループ各社で積極的に行い、一人ひとりの時間管理の意識向上と、計画的な業務遂行を促し、効率的な業務配分の指導や役割分担の見直しなど、時間外労働削減のための取り組みを推進しています。

労働時間の削減に向けた取り組みを実施

四国アルフレッサ(株)

TOPIC



営業業務部長
白川 国男

労働時間の削減のため、まず各現場から現在の仕事内容や問題点の聞き取り調査を実施し、時間外業務の要因となるものは、廃止や見直しを実施するなどして効率化や簡素化を行いました。同時に、残業による全社員の退社時間の段階的な早期化も行いました。

これにより、家族と過ごす時間が増えたり、自分の時間が増えたことでストレス解消に役立ったといった声や、これまでできなかった新しいことにチャレンジできるようになった等さまざまな声があり、共に働く人々の仕事へのモチベーション向上につながっていると感じます。

今後も現場の声を吸い上げながら、いきいきとやりがいを持って働く職場づくりを目指していきます。

安全衛生活動

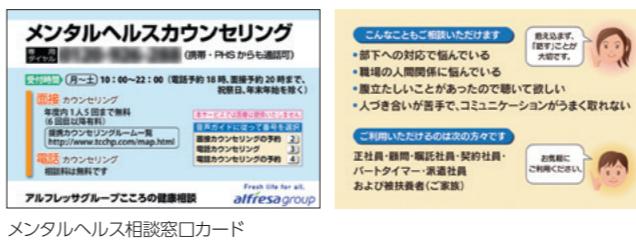
医薬品の製造を担うアルフレッサ ファーマ(株)では、共に働く人々を対象にリスクアセスメント方式を導入し、労災事故を未然に防ぐよう方針を掲げ、安全衛生活動に取り組んでいます。2014年度の度数率^{*1}は6.0、強度率^{*2}は0.00でした。

*1 度数率:100万延べ実労働時間当たりの労働災害による休業災害件数

*2 強度率:1,000延べ実労働時間当たりの労働損失日数

健康管理・メンタルヘルスケア

健康・医療分野で活動する当社グループは、共に働く人々の心身の健康の維持・増進に関する取り組みを重要なテーマと位置づけています。グループ各社では、定期健康診断の実施に加えて、特殊作業者検診、年齢別検診などの実施や、検査項目の充実を図り、健康診断の結果有所見者となった方へは2次検査受診促進等のフォローに努めています。また、身体の健康だけでなく、メンタルヘルスを維持する取り組みとして、共に働く人々が適時相談できる「アルフレッサグループこころの相談窓口」を設置しています。



メンタルヘルス・セルフケア研修およびストレスチェック申告を実施

シース薬品(株)

労働組合との関わり

当社グループでは、労使双方がお互いを信頼し、共に協力していくことが、今後のグループの発展につながると考えています。グループ各社では、労使間で定期的な対話の機会を設け、互いに協調し、風通しのよい関係を構築することを目指しています。

労使の良好な関係を構築

アルフレッサ ヘルスケア(株)

TOPIC

アルフレッサ ヘルスケア(株)では、労使間で良好な関係を築くために、年2回の労使協議会だけにとどまらず、適宜情報交換会を開催するほか、組合員の意識調査のための職場集会やアンケートを基に意見交換を実施しています。

これらの取り組みを通じて得た意見を活かし、昇・降給を明確化した給与制度への改訂や、要望に応じた中間管理職向けの研修を実施するなど、福利厚生の充実や各種制度の新設、改善につなげています。

今後はさらに労使間の理解を深めるために、よりフレンドリーな雰囲気作りでの情報交換会の実施や経営陣と、共に働く人々との直接的な対話の機会を設けることを検討しています。



人権の尊重

当社グループは、基本的人権を尊重し、国籍、年齢、性別、障がいの有無などによる差別的な扱いや不当な人権侵害を行いません。さらに、共に働く人々の個人情報が外部に漏洩することがないよう適切に管理し、プライバシーの保護にも努めています。

ハラスメントへの対応

当社グループは、セクシャルハラスメントおよびパワーハラスメント等の未然防止に努めています。コンプライアンスガイドラインでハラスメントに関する指針を定め、人権やハラスメントに関する問題や悩みを相談できる窓口を設置し、共に働く人々が安心して相談できる環境を整えています。



メンタルヘルスケア研修の様子

私たちは、公正かつ透明で自由な競争による 適正な取引を行います

アルフレッサグループでは、法令を遵守することはもちろん、法令の精神や社会規範、倫理、道徳に鑑みて、どのような行動が相応しいのかという基準をコンプライアンスガイドラインに定め、コンプライアンスを推進しています。

コンプライアンス

推進体制と方針

当社グループでは、コンプライアンスを「共に働く人々が法令、社内外の諸規則および社会規範を遵守し、法的責任と社会から期待される倫理的な責任を主体的に果たすこと」と定義しています。

また、コンプライアンスをCSRの重要領域の一つと捉え、CSR推進委員会の下に「コンプライアンス会議」を設置するほか、グループ各社の推進体制を整備し、以下の考え方で推進しています。

- (1) 法令等を上回る自主的な基準を設け、その基準を目標としてPDCAを推進する
- (2) 共に働く人々が、コンプライアンスガイドラインを理解し、日々の行動で体現できるように支援する

コンプライアンスハンドブック

当社グループでは、2005年に制定したコンプライアンスガイドラインを周知・徹底する媒体として「コンプライアンスハンドブック」を発行しています。共に働く人々がコンプライアンスについて考える機会に、適時参照できる冊子となっています。2013年度には、最新の法改正等への対応に加え身近な事例を追加し、平易な表現を使うなど、より理解しやすいよう改訂を行いました。



コンプライアンス
ハンドブック第4版

コンプライアンス相談窓口

当社グループでは、高い倫理観のもと、コンプライアンスガイドラインを遵守し事業活動を行っていますが、法令・企業倫理に反する行為の早期発見または未然防止のため、共に働く人々が相談・申告できるコンプライアンス相談窓口を整備しています。相談窓口はグループ各社内のはかアルフレッサ ホールディングス(株)にグループ共通の相談窓口を設けており、グループ全体に関する相談等幅広く対応しています。さらに近年は、内部通報が集まりやすい環境を強化するためグループ各社にて社外相談窓口の設置を進め、概ね設置が完了し運用を開始しています。相談窓口では利用者のプライバシーなど人権に配慮し、秘密を保持するとともに、公益を目的とした通報者の権利を保護しています。

コンプライアンス研修・啓発活動

グループ各社では、コンプライアンスハンドブック等を用いた研修や啓発活動を実施し、コンプライアンス意識の浸透に努めています。

● 各社で実施している主な研修・啓発活動

- ・コンプライアンスハンドブックの読み合わせ
- ・新入社員研修時のコンプライアンス教育
- ・部長・支店長・課長など管理職向けコンプライアンス教育
- ・社内インターネットでコンプライアンス情報を配信



新入社員向けコンプライアンス研修の様子

効果的なコンプライアンス研修を実施

(株)恒和薬品

TOPIC

当社では、アルフレッサグループのコンプライアンス推進活動の枠組みに則りながら、独自の活動にも取り組み、共に働く人々のコンプライアンス意識の向上を図っています。

富野 勲

総務部総務課長
2014年度は、本社と各営業所における毎月のコンプライアンスハンドブックの読み合わせや、外部講師による管理者向けのコンプライアンス研修等を実施しました。特に、管理者向けの研修では、管理者自身がハラスメントへの理解を深めることでより良い職場環境を醸成したり、部下への効果的な指導ができるよう、事例を交えわかりやすく伝えることを意識しました。研修への参加者からは、「コンプライアンス、特にハラスメントについては判断の難しい部分が多くあり、事例を示しながらの研修は理解しやすかった」「ハラスメントとなるか否かの判断が曖昧で難しい部分もあり、継続して本研修を実施してほしい」といった声が聞かれました。

コンプライアンス担当者としては、職場の労務リスクの存在を常に意識し、リスクに対する改善点を探るようにしています。引き続き、社内のコンプライアンス意識の向上に努めていきます。



管理者向けコンプライアンス研修の様子

安全運転の取り組み

営業、物流、配送等の各工程で多くの自動車を使用する当社グループでは、交通ルールを守り、安全運転に努めることが重要な使命です。当社グループでは、交通安全の取り組み強化をCSR活動の重要項目に掲げ、グループ全体でさまざまな施策に取り組んでいます。安全運転講習への参加や「アルフレッサグループ交通安全運動」の実施等のほか、近年は、テレマティクス*等の運転監視装置を利用した交通安全運転指導を行うなど、各社で交通安全の取り組みを強化しています。

*テレマティクス：通信機能やGPS機能を備えた車載機を利用して、車両の運行状況等をリアルタイムに提供する情報サービス。

テレマティクスを効果的に運用

アルフレッサ ファーマ(株)

TOPIC



総務部

今中 桂三

「交通事故ゼロ」および「運転マナーの向上」は、営業活動で車両を使用する企業として、また、生命関連企業としても、社会的責任を果たす上で取り組むべき重点課題です。当社では、2014年1月より、交通事故者、交通違反者、新入社員に対し、テレマティクスの導入による交通安全運転指導を開始し、運転者の速度超過・急減速・急加速が計測された場合、管理担当者から本人と上長に危険警告メールを発信し、運転マナー是正のための注意喚起を行っています。

テレマティクスの導入以降、速度超過や交通事故、交通違反等の件数は大幅に減少しており、機器を設置した運転者からは、「法定速度を遵守し、急ブレーキ・急発進を予防する意識付けに結びついている」といった声が聞かれます。また、機器を設置していない運転者においても、マナーおよび法令遵守等の安全運転に対する意識が広がっています。

一方で、駐車時における自損事故等にはテレマティクスでは対応できないため、教習所での実技講習も行っています。安全運転意識の定着と交通事故ゼロをめざし、引き続き効果的な施策を実施していきます。



テレマティクスを搭載した自動車

私たち、お客様・お取引先様などからお預りした個人情報および 自社の重要情報についての保護に努めるとともに、広く社会との 積極的なコミュニケーションを図り、適切な情報を適時に開示します

アルフレッサグループは、「社会から信頼される企業グループを目指す」ために、ステークホルダーの皆様と積極的なコミュニケーションを図っています。適時かつ誠実な情報開示に努めるとともに、情報の取り扱いに関する方針を定め、情報の管理を徹底しています。

情報管理

当社グループは、高度な情報化社会に対応するため、関連法規を遵守するとともに、情報管理基本方針を定め、体制の整備や事業活動において保有する情報の適切な管理に努めています。近年の国内外での情報関連事故事例等を踏まえ、メールシステムの情報漏洩対策を強化し、グループ各社へ順次導入を進めています。

個人情報保護

当社グループは、事業活動を行うにあたり、お預かりした個人情報を保護することが重要な社会的責務であると認識し、次のアルフレッサグループ・プライバシーポリシーに基づき、対応しています。

プライバシーポリシー

1. アルフレッサグループは、個人情報保護に関する法令およびその他の規範を遵守します。
2. アルフレッサグループは、個人情報を保護するための管理体制を確立し、個人情報の適正な取り扱いの確保に努めます。
3. アルフレッサグループは、個人情報を適切に取得、利用、提供するとともに、開示・訂正等・利用停止等について適切な対応をします。
4. アルフレッサグループは、個人情報を正確かつ最新の状態に保つよう努めるとともに、漏洩、滅失または毀損の防止その他の適切な安全管理措置を講じます。
5. アルフレッサグループは、個人情報を適正に管理するための社内規程類を策定・整備のうえ、実施し、継続的な改善に努めます。

個人情報の取り扱いに関する詳細はWEBをご覧ください
<http://www.alfresa.com/privacypolicy.html>

グループ全体の情報セキュリティ対策強化に向けて TOPIC



企画部
倉持 俊昭

安全で信頼できる情報システムを構築し、アルフレッサグループ各社に提供するために、情報セキュリティ対策の世界標準であるISMS認証を取得のうえ更新を行っています。また、アルフレッサグループ全体でのセキュリティ対策レベルの標準化と強化に取り組み、2015年4月よりグループ共通の情報セキュリティ対策をスタートさせました。情報漏洩の発生防止の観点から、各社のシステムの現状確認を行ったのち、浮かび上がった課題をPDCAサイクルで改善しています。



ISO27001認証登録証

ステークホルダーとのコミュニケーション

当社グループでは、当社グループの情報を適時・適切に発信しています。ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図り、多様な対話の機会をつくることで、いただいたご意見等を事業活動に反映させていきたいと考えています。

特に、お客様向けに幅広いイベントやセミナーを開催しており、お客様への積極的な情報発信・提案を行う機会を創出するとともに、これらのイベントやセミナーをご要望や課題を探る重要な対話の機会と位置付けています。今後ともより良いイベントやセミナーを企画運営し、お客様との関係を強化していきます。

アルフレッサグループのステークホルダー	コミュニケーションの考え方
お客様・お取引先様	医療機関や調剤薬局などのお客様と、医薬品等を製造するお取引先様との橋渡し役として、それぞれに有用となるテーマのセミナーやイベントを開催し、健康・医療に関する課題解決や情報共有の場を提供しています。
株主・投資家の皆様	株主・投資家の皆様に適切な情報を届けるために、透明性・公平性・継続性・適時性・双方向性を原則として、タイムリーな情報開示を行っています。ホームページ等での迅速な経営情報の発信、株主総会や決算説明会、期末決算時および第2四半期決算時の報告書発行などを通じて、積極的なIR活動を推進しています。
社会	地域密着の事業活動を通じ、医療に貢献するほか地域と共に発展する企業市民としての責任を自覚しています。清掃活動に積極的に参加するなど、地域との共生を図っています。
環境	医薬品等の製造、販売、廃棄に至る段階において環境負荷の低減に取り組み、CSR報告書を通じて情報開示しています。
共に働く人々	グループ報などを通じて情報を共有し、グループ理念体系の浸透を図っています。

医療関係者向け等の各種イベントへ出展

アルフレッサ メディカルサービス(株) TOPIC

アルフレッサ メディカルサービス(株)は、2014年度は医療関係者や卸売業者、ドラッグストアの方々向けの3つのイベントに出展し、多数の方々にご来場いただきました。物流管理システムやプライベートブランド商品等をご紹介することで、サービスや商品を広く知っていただく貴重な機会となりました。

これらイベントには毎年継続して参加し、お客様と直接交流できる大切な場となっており、ご来場者にはサンプルや詳細説明の依頼を多くいただいている。お客様の声を直接お伺いし、多種多様な商品からお客様の真のニーズを捉えた商品を選定して紹介することは、チャレンジングではありますが、説明に対して感謝の言葉をいただいたり、購入に結びついたりするため、仕事のやりがいにつながります。

今後はグループ各社主催のイベントにも積極的に参加するとともに、グループ会社と外部展示会への共同出展を進めるなど、グループ内のシナジーを活用し、お客様との一層の信頼関係づくりとアルフレッサグループとしての価値提供に努めています。



アルフレッサ メディカル・フェア
2014の様子

アルフレッサ メディカルサービス(株)出展イベント (2014年度)

展示会名	開催日程	開催地	来場者数(延べ)
国際モダンホスピタルショウ2014	2014/7/16~18	東京	約8万人
アルフレッサ メディカル・フェア2014	2014/9/6~7 2015/1/31~2/1 2015/2/14~15	横浜 大宮 大阪	約1,600人
ライフサポートフェア	2015/2/4 2015/2/24	大阪、東京	約1,500人



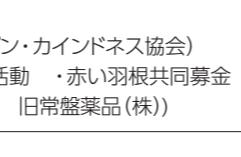
国際モダンホスピタルショウ
2014の様子

私たちは、事業活動を通じて社会に貢献するとともに、 地域社会に対し積極的な社会貢献活動を行い、 地球環境問題にも自主的・積極的に取り組みます

アルフレッサグループは、企業市民としての責任を自覚し、地域社会に密着した事業活動を展開するとともに、社会との共生を図りながら持続的に発展することを目指して社会貢献活動に取り組みます。

また、環境保全をCSRの重要課題の一つとして掲げ、環境負荷の低減に積極的に取り組みます。

グループ各社の社会貢献活動

主な取り組み	
アルフレッサ ホールディングス(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・経団連自然保護基金への寄付 ・WFP食糧支援活動への寄付 ・WFPエッセイコンテスト2014協賛 ・WFPウォーク・ザ・ワールド協賛／参加 ・エコキャップ運動 
アルフレッサ(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・Keep on Smiling for Children Project in 比叡山延暦寺 ～こどもたちの新しい明日へ～(東日本大震災による孤児や遺児たちの支援)協賛 ・SUPER CAR RACE SERIES & Kids Traffic Safety School Projects (子ども向け参加体験型交通安全教室等)協賛 ・こども110番 ・インターンシップ受入れ 
四国アルフレッサ(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛ブルーランドサマーキャンプへの参加(小児糖尿病支援) ・認知症センター研修実施 ・第22回歩いて学ぶ糖尿病ウォーカリー参加 ・献血活動 ・こども110番 ・エコキャップ運動 
ティーエスアルフレッサ(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会ほか中国地方の市町村等へ車椅子の寄贈(100台) ・広島土砂災害への義援金送付および土砂撤去ボランティア活動参加 ・地域清掃活動 ・献血活動 ・社会貢献型自動販売機の導入(癌撲滅活動支援、日本赤十字社活動支援) ・エコキャップ運動(以上 旧成和産業(株)) ・岩国市・和木町災害支援(援助物資提供) ・「ゆび募金」への協力(NPO法人ジャパン・カインドネス協会) ・宇部市街頭美化清掃 ・「はあ～とofふれんず」障がい者の祭典への参加 ・献血活動 ・赤い羽根共同募金 ・使用済切手・カード、ベルマークの盲老人ホーム支援ボランティアへの寄贈(以上 旧常盤薬品(株)) 
明祥(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人つくし会 地域美化活動参加 ・石川県防災総合訓練参加 ・エコキャップ運動 ・認知症センター養成講座参加 ・献血活動
(株)小田島	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人「世界の子どもにワクチンを」日本委員会の活動支援 ・「全国パーキンソン病友の会」活動支援 ・認知症センター養成講座実施 ・「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」オフィシャルセンター ・エコキャップ運動 ・献血活動 ・地域清掃活動
シーエス薬品(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップ運動 ・地域清掃活動 ・こども110番 
(株)琉華	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全立消運動 ・献血活動 ・エコキャップ運動 ・こども110番 ・赤い羽根共同募金 ・NPO法人コーラル沖縄への寄付(サンゴ再生支援活動) ・地域清掃活動 ・いのちの電話への寄付 ・ピンクリボン運動(自販機売上的一部分を寄付) 
アルフレッサ日建産業(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症センター養成講座参加 ・日赤有功会への寄付 ・献血活動 ・「FC岐阜」への寄付 ・「ゆび募金」への協力(NPO法人ジャパン・カインドネス協会) ・岐阜県訪問介護協会事業の支援 ・「NPO総合体操クラブ」の活動支援 ・インターンシップ受入れ ・岐阜市社会福祉協議会への募金 ・「ダメ。ゼッタイ。」普及運動参加(薬物乱用防止) 
(株)恒和薬品	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆび募金」への協力(NPO法人ジャパン・カインドネス協会) ・献血活動 ・エコキャップ運動 ・地域清掃活動
アルフレッサ メディカルサービス(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人緑の地球防衛基金の活動支援(使用済切手、テレカ送付) ・エコキャップ運動
アルフレッサ ヘルスケア(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップ運動 ・地域清掃活動 ・地域祭礼時の開催場所提供 ・「ゆび募金」への協力(NPO法人ジャパン・カインドネス協会)
アルフレッサ ファーマ(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人日本口唇口蓋裂協会の活動支援 ・救命救急講習への参加 ・献血活動 ・エコキャップ運動 ・がん検診企業アクション推進パートナー企業としての活動 ・地域消火訓練への参加 ・交通安全街頭活動 ・中学生職場体験学習の受入れ ・地域清掃活動 

373名の認知症センターが誕生

明祥(株)



医療情報部 課長代理
福井支店 管理薬剤師
五十嵐 久美

国内の高齢化の進展とともに認知症患者数は増加しており、地域における患者支援体制の構築が大きな課題となっています。このような中、医薬品卸販売に携わる者として、認知症についての正しい知識を持ち、認知症患者様への理解を深めることで、地域社会へ貢献する一翼を担うことができるとの考え方から、認知症センターの養成を行いました。

「NPO法人つくし会」と連携して、2014年7月に各営業所で全11回にわたり「認知症センター養成講座」の講習会を開催し、受講した373名全員が認知症センターの認定を受けました。参加者からは、「認知症についての理解が深まった」「認知症患者様への対応法が理解できた」といった声が聞かれました。皆の認知症センターとしての意識向上が図れたこと、地域住民を意識する目線を養うことができたことに大きな成果を感じています。

今後、認知症センターとなった一人ひとりの地道な活動が、さらなる社会貢献につながると信じています。改めて、お客様とともに地域社会への貢献ができるよう、地域住民として、また、医療関係者の一員として、日々研鑽を積んでいきたいと考えています。



「認知症センター
養成講座」講習会の様子



訪問介護協会を通じて、地域介護を支えています

アルフレッサ日建産業(株)



取締役
堀 政典

今後日本がさらなる高齢化社会を迎えるにあたり、在宅介護の観点から、地域の高齢者をどのように支えていくかは大きな課題です。地域の介護事業者は比較的小規模で、経営相談、職員教育、事業者間および行政との連携などが難しい環境下にあることから、当社は、2010年に訪問介護協会を設立しました。

本協会には、現在51の事業者が参加し、行政等の公的な会議の場で訪問介護事業者の立場から意見、提言を行うとともに、他団体との連携、協議を図っています。また、介護ヘルパーや介護サービス提供責任者等の人財育成にも注力しています。研修等での活発な意見交換の様子や、参加者の熱い思いに触れるところ、協会の存在意義を感じます。本協会の活動を通じ、行政や関連団体との連携も深めながら、豊かで安心して介護を受けられる地域社会への貢献を目指しています。



訪問介護協会での
研修の様子

効果の高い研修や人的交流に感謝

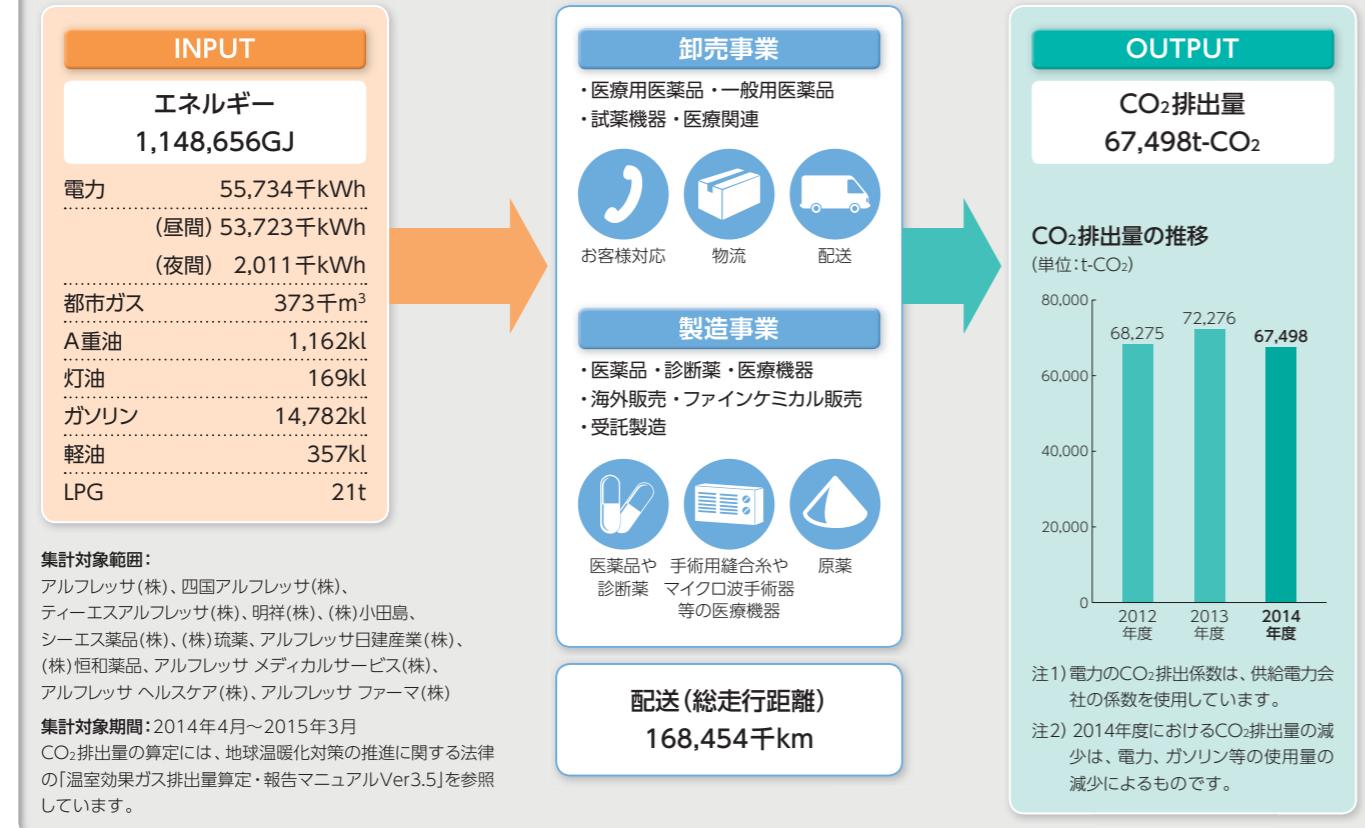
訪問介護協会へ入会して3年が経ち、その間に全国有数の講師の先生方のさまざまな研修に参加させていただきました。訪問介護業務には必要不可欠な内容で、日々の業務に生かすことができています。また、協会の活動を通じて、多様な立場の方々と交流が持て、意見交換ができることが大変ありがたいです。高齢者の在宅生活を支える訪問介護がより良いものになるよう、今後も活動に参加していきたいと思います。

つけん介護岐南ケアセンター センター長
宮本 よしえ 様

環境負荷低減の取り組み

当社グループの主な環境負荷はオフィスや工場、物流センターなどで使用される電力と、営業活動で消費される車両燃料(ガソリン等)に起因しています。

環境負荷の全体像

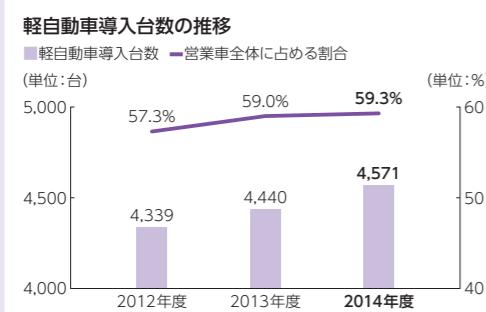


環境に配慮した低燃費車への切り替え

アルフレッサグループ

TOPIC

当社グループでは、共に働く人々の半数程度を占めるMSや配送担当者などがお客様を訪問する際に自動車を使用するため、自動車の環境負荷低減に注力し、軽自動車やハイブリッド車への切り替えなど、低燃費車の導入を推進しています。2015年3月現在、軽自動車4,571台、ハイブリッド車265台となりました。

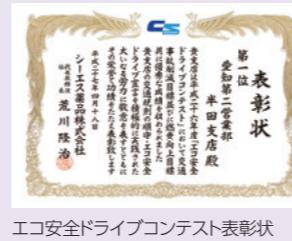


エコ安全ドライブの推進

シーエス薬品(株)

TOPIC

シーエス薬品(株)では、営業車による環境負荷低減や安全運転のためのエコ安全ドライブを推進しています。2013年度より、エコ安全ドライブ表彰制度を設けているほか、2014年度から一部車両へのテレマティクス設置やエコ安全ドライブ啓発ポスターの掲示、エコ安全ドライブのステッカーの車両貼付による啓発活動等を実施しています。2014年度は、前年度比11.3%の燃費改善を達成しました。共に働く人々の安全運転へのさらなる意識向上のため、今後も啓発活動に注力していきます。



第三者意見



向社会性研究所
主任研究員 社会学博士
小樽 雅章氏

2013年、14年に続いて、今年も「アルフレッサグループCSR報告書」を熟読させていただいたおかげで、単年度だけでは見えないことが見えてきたように思います。

まず、アルフレッサグループのCSR活動の最も重要な役割は、石黒社長がトップメッセージで表明しているように、この国の「すべての人に、いきいきとした生活を創造し届ける、それは人々の健康と生命を支えるインフラであり、途絶えさせてはならない社会的使命を負っている」というグループの基本姿勢を、全社全グループで共有し、徹底することだということです。

この3年間で、アルフレッサグループのCSRは、ゆっくりですが着実に進化し、成果を上げつつあると思います。

2013年には、やや説明不足の感もあり、課題が散見されました。ですから、第三者意見として辛口の提言をしました。社会的使命を担う自覚の徹底やハラスマントや女性の活躍についても意見を述べさせていただきました。

2014年にも、「共に働く人々」こそが、アルフレッサの底力であり推進力なのだから、個性を尊重し、働きやすさをもっと配慮すべきだと、重ねて意見を述べました。

そして2015年です。アルフレッサグループは、全社で何をやっているのか、なぜ、どのように健康と生命を支えるインフラを担っているのか、「人々の健康と生命を支える医薬品流通」

という特集は、「途絶えさせてはならない社会的使命を負っている」という役割や実績がわかりやすく、しっかり伝わってくる編集になっているように思いました。また、「私たちの約束」も具体的で、熱意と決意が感じられます。

たとえば、P.21の人事に関する基本データを見てください。従業員数がこれまで総数だけの表記でしたが、今年初めて男女の数が記載されました。男8,591人、女5,429人、合計14,020人。私はこの数字を見て驚きました。なんと女性が約4割も働いている。この女性の力が、アルフレッサグループを支えているだと改めて実感しました。できれば、活躍の実像をもっと知りたいものです。

2013年から社外取締役に就任された木村和子先生のお話がP.26に掲載されています。「…医薬品情報を蓄積した流通業者が助言者として存在感を示す機会があります。…医薬品流通業の社会的役割が世の中に広く認知されることを願います。また、共に働く人々には医療保険料と税金を原資とする公共性の高い職業であることを常に心に留めて職務に励んでいただきたいと思います」というご意見に、まったく共感します。ぜひグループ全体で共有してもらいたいご提言だと考えます。

私は、このCSR報告書を最も読んでもらいたいのは、14,000人の従業員の皆さんだと思います。アルフレッサグループは年々進歩していて、全体像を理解するには、この報告書は絶好の教科書です。新人や若い従業員の皆さんは当然ですが、役員も管理職も、毎年、しっかり読むべきなのです。自分たちの会社やグループが何を目指しているのか、何が新しくなり、何がまだ足りないのか、もっときちんと知るべきです。そして、アルフレッサグループの社会的使命を改めて自覚し、誇りを持って仕事に取り組んでほしいと思います。

第三者意見を受けて



アルフレッサ ホールディングス(株)
取締役 副社長
CSR推進委員会 委員長
長谷部 省三

本年も引き続き、当社グループのCSR報告書に対し貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。今回の報告書では、アルフレッサグループの基幹事業である医薬品流通について特集を組み、分かりやすさを心がけて紹介させていただきました。

ご提言いただいた「社会的使命を担う自覚の徹底」や「外部弁護士等の相談窓口設置」等、着実な実施を心がけてまいりました。女性活躍推進についても重要な課題として継続して取り組み、適宜、進展の様子をお知らせするようにしたいと思います。

また本報告書により、アルフレッサグループの役割や使命を役職員と再確認し、今後も社会から一層信頼される企業グループを目指してグループ全体で活動してまいります。



アルフレッサ ホールディングス株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町一丁目1番3号 Tel. 03-5219-5100
URL: <http://www.alfresa.com/>

社名の由来

アルフレッサ(Alfresa)は、ALL(「全ての」の意)+FRESH(「いきいきとした」の意)を合わせたネーミングです。
「あらゆる人の幸せを願い、健康に関する全てのニーズに応え、新世代のいきいきとした生活を創造、提供する」企業をめざす、私たちの思いを込めた社名です。